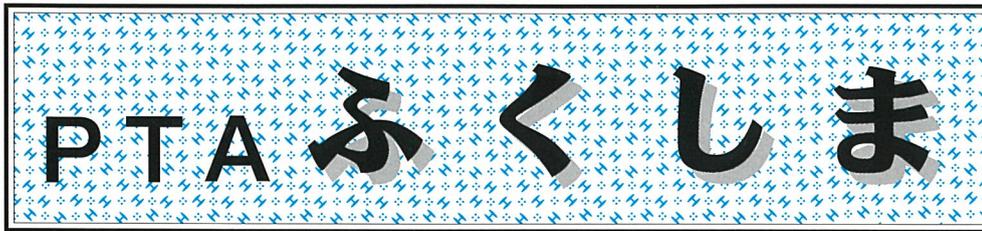


福島県PTA連合会会報
臨時増刊号_H14.02.19



臨時増刊号
 福島県PTA連合会
 編集/調査広報委員会
 印刷/泉印刷所

福島県PTA連合会創立50周年

記念式典盛会に挙行

平成13年11月6日(火)
 於 福島市



式 辞

福島県PTA連合会
 会長 早川 敬介

本日、ここに福島県知事様、福島県教育委員会教育長高城俊春様、日本PTA全国協議会会長様、東北PTA連絡協議会の皆様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、福島県PTA連合会創立50周年記念式典を挙行できますこと、大変うれしく存じます。

さて、顧みますと、昭和二十六年発足以来、福島県PTA連合会は、責任ある社会教育団体として成長して参りました。このことはひとえにこの五十年間、歴代会長を中心に先輩諸兄が、県内各地においてPTA発展の歴史を築かれてこられた努力の賜ものと心から感謝いたしております。そして、この度三十周年以降の歴代会長様方に感謝状をお渡しできますこと現役の会長としてあらためて事の重きに感動を覚える次第であります。

いつの時代でも、親が子どもに寄せる想いは同じであると思えます。子どもには未来に対する可能性があり、そして教育にはその子

どもたちの可能性を引き出す力と実現させる力とがあります。

私たちPTAは、家庭・学校・地域社会の何れにも深くかわりをもっている子育ての当事者として、「完全学校週五日制」や「総合的な学習の時間」や「学校評議員制度」の導入など、今後取り組まれる教育改革の諸施策に対し、子どもたちを取り巻く教育環境の整備のために、また、子どもたちの健全育成のために、諸機関や団体と様々な面で連携協力をしていかなければなりません。

今後、PTA活動への期待がますます高まることが予想されますが、五十周年の節目にあたり、さらなる本会の発展と充実を図るため、会員の皆様と共に英知を結集し、時代や社会の要請に応えて参りたいと存じます。

結びに、本記念式典を挙行するにあたり、ご尽力いただきました実行委員会をはじめとする関係者各位に、衷心より感謝を申し上げます。

◆ お祝いのご挨拶をいただいた皆様方 ◆

(右からご挨拶順)



日本PTA全国協議会会長代理
副会長(秋田県P連会長)
赤田 英博 様



福島県教育委員会
教育長 高城 俊春 様



福島県議会議長代理
議員 齋藤 卓夫 様



福島県知事代理
副知事 川手 晃 様

皆様方から創立50周年を迎えたことに対するお祝いのことばや、50年間における活動の功績に対しての謝辞をいただきました。また、50周年を契機に今後の更なる発展を期待するなど、励ましのことばを頂戴しありがとうございました。

記念式典から



受付風景



開式の辞
小松良行副会長



会員席風景



進行 山田 和江

- ### 式典次第
- 1 開式のことば
 - 2 国歌斉唱
 - 3 式 辞 会長
 - 4 感謝状贈呈
 - 5 祝 辞
福島県知事 様
県議会議長 様
県教育長 様
日 P 会長 様
 - 6 来賓紹介・祝電披露
 - 7 P T A の歌斉唱
 - 8 閉式のことば



感謝状贈呈風景



祝舞「華扇」
藤元 智華 様

贈呈者ご芳名			
菅野 久俊 様 (12代会長)	櫻井 和朋 様 (19代会長)		
阿部 光寿 様 (13代会長)	芳賀 裕 様 (20代会長)		
西條 善男 様 (15代会長)	山岸 清 様 (22代会長)		
本田 文吾 様 (17代会長)	永井 七郎 様 (元事務長)		
齋藤 元 様 (18代会長)	尻谷 洋 様 (前事務長)		



閉式の辞
熊本光義副会長

- 出席者数—来賓、会員、役員を含めて、325名。(当日、欠席あり)
- 福島市P連の皆様には、早朝からのお手伝いありがとうございました。
- 何よりも嬉しかったこと。1 時間どおり進行したこと。
2 「良かったね。」のことばだけが事務局に入ったこと。
- 各郡市P連の事務局の皆様、何かとご協力ありがとうございました。

福島県PTA連合会が創立五十年を迎えられ、半世紀にわたる関係各位のご努力を称えらるとともに、お慶び申し上げます。

二十一世紀のPTA活動はどうあるべきかを、二十一世紀の教育はどうあるべきかということ、PTA活動の意味、原点と、生涯学習の観点から考えてみたいと思います。PTAについては、P・T and S (ソサエティーII社会)を含めたA (アンシエーション)にすべきではないかと思っております。

今日は、四つの点からお話をさせていただきます。一つは、二十一世紀はどのような技術開発が行われ、どのような社会になるだろうかということ。二つは、学校教育の問題点と当面の解決策。三つ目は、生涯学習に対する理解とその定着。四つ目には、学校教育、生涯学習、PTA活動の共通の課題を解く鍵をさがしてみたい。

まず二十一世紀の教育がどうあるべきかを考えるにあたって、二十一世紀はどのような技術開発が行われようとしているかを知る必要があります。なぜならば、直接的にも間接的にも教育内容に関係し、それによって産業構造も雇用形態、取引方法、生活様式など全ての分野にこの技術開発が影響するからです。

日本の科学技術政策の重点領域として、IT、環境、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーの四つと総合科学技術会議で決められました。これらの技術改革の振興によって、社会がどう変わるかということ。

また、二十一世紀の政治経済社会にインパクトを与えるものは、文化と少子化・高齢化です。文化については、異文化の理解と融合とが課題となります。異文化については、国対国だけでなく、同国内の文化も含めて考えたい。少子化・高齢化については、それに伴う多くの問題が発生します。特に、労働力不足と、若者・壮年者の社会経済負担の増加が課題となります。

教育の問題と当面の解決策についてですが、子どもの社会性を育てる環境を構築することが緊急の課題と考えます。社会性を高める環境を親や社会がつくっていくことが必要ですが、今日、家庭での教育力が弱くなっている指導がでないこと、学校では、学校では、というのと、教師の保守的・閉鎖的、社会性がないなどということ、期待が出来ないとも言われております。

そこで、社会に開いた学校づくりを目指し、工夫した経営をする

学校がでております。例えば、授業公開を実施し、教師がいつそう学び・変わるようにし向けたりしています。

また、教師の社会性や指導力を

記念講演 (要旨)

演題 『21世紀のPTA活動 —生涯学習の視点から—』



講師 松蔭女子大学教授・経営文化学部長
静岡県立大学大学院講師・経営学博士

長 坂 寛 先生

理の導入など必要かと考えます。

生涯学習については、一九六五年にフランスのポールラングランが永久教育を提唱し、これが生涯学習のきっかけとなりました。

その後、OECDがリカレント教育を提唱して脚光をあげ、我が国では一九七一年に社会教育審議会等の答申で、生涯教育として取り上げられ、その後、名称も生涯学習と変わりましたが、その観点は、生涯にわたる学習の継続と、家庭教育と学校教育そして社会教育とを有機的に結合することの二つです。

したがって、生涯学習体系への移行が、二十一世紀の教育の基本的なあり方と考えます。

生涯学習とは、生き方の手ほどきであり、生活適応の学習であります。具体的には、どのように生きるか、それぞれの場面にどのような知識と工夫が必要かを学ぶことです。誰でも、どこでも、何時でも学習、これが生涯学習です。

さて、生涯学習が提唱されてから、父母や教師が、生涯学習について真剣に研究をしたか。学校教育が目に見える形が変わったか。また、PTA活動が目に見える形で変わったか。という観点からの反省が必要だと思います。

これからは、学校の開放とともに

に、PTAの開放もすべきであります。PTA活動の主体がTにあってPにない。したがって、社会性の欠如と閉鎖性に陥っていますので、その解決にはPTAは外部の力を借りるべきです。

家庭でも学校でも子どもに望むことは、協調性であり、指導力であり、責任感であり、忍耐力であり、他人への思いやりではないか。これらの育成のため、PTA活動はもつと目を広くして、子どもたちを支援する活動を創造すべきと考えます。

そのためには、PとTともに生涯学習の理念と理論をもう一度学習し合って、しかも、そこで必要なことは、パラダイムの変換(発想の転換)を図って、子どもたちの夢や希望が実現できるように惜しみなくサポートをすることではないでしょうか。

最後に、「夢のあるものは希望がある。希望のあるものは目標がある。目標があるものは計画がある。計画のあるものは行動がある。行動のあるものは反省がある。反省があるものは進歩がある。進歩があるものは夢がある。」

子どもたちに夢と希望を与えるよう、生涯学習に立脚したPTA活動を今後とも推進していただきたい。



進行 手島まり子



早川会長あいさつ



開会のことば
清川雅史副会長

祝賀会から

祝賀会次第

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 祝 辞
県教育庁生涯学習課長 様
県小中学校長会代表 様
- 4 歴代会長代表メッセージ
菅野 久俊 様 (12代会長)
- 5 乾 杯
山岸 清 様 (前会長)
- 6 祝 宴
- 7 万歳三唱
芳賀 裕 様 (20代会長)
- 8 閉会のことば

ご祝辞をいただきました



乾 杯
前会長 山岸 清 様



県教育庁生涯学習課長代理
主幹 佐々木孝司 様



県小学校長会
会長 加藤 征男 様



歴代会長代表メッセージ
12代会長 菅野 久俊 様



閉会のことば
佐藤友宏副会長



万歳三唱
20代会長 芳賀 裕 様

- 出席者数-264名 (来賓も含めて)
- どちらかというと式典は静的な場であったが、祝賀会は、テーブルのもたらす効果が生きて、語り合いの場になった。PTA活動を中心話題に、熱き想いで情報交換等が行われ有意義な会であったと自負しております。
- 50周年という「節目」を新世紀への単なる通過点としてでなく、先人の偉業などを確かめると共に、21世紀のPTA活動をも展望するなどのよい機会ともなりました。